

研修会報告

令和元年6月25日

文責：学術副部長 阿部 武彦

研修会テーマ：宮臨技臨床検査総合部門研修会

「認知症を知る～はじめての一步～」

開催日時：令和元年6月15日（土）14：00～17：00（受付13：30～）

会場：東北大学医学部臨床講義棟内 臨床中講堂

司会：東北大学病院 診療技術部 鈴木 宏

生涯教育点数 専門20点

参加者：会員45名 非会員4名（講師2名含む） 計49名

講師：①公益社団法人 認知症の人と家族の会 代表 若生 栄子先生

②社会福祉法人東北福祉会 せんだんの里 総合施設長 舟越 正博先生

③公益財団法人 坂総合病院 検査室 阿部 武彦技師

【内容】

宮臨技では昨年度2月に開催した「平成30年度認知症対応力向上講習会B」に引き続き2度目の認知症の研修会となりました。本研修会は、医療従事者として今後認知症検査に携わるきっかけとして、認知症の当事者とそのご家族の声に耳を傾け医療従事者としての役割を学ぶ場にする事を目的に開催しました。また、それと同時に認知症のサポーターの養成と認定認知症領域検査技師の取得に向け裾野を広げたいと考え開催しました。他県からの参加者が多く、アンケートからも東北地区での認知症研修会開催の要望が強く、今後は他都道府県技師会とも連携を図り研修会の機会を増やし会員の要望に応えるよう務めていきたいと考えています。

平成27年に厚労省から国家プロジェクトとして「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」が打ち出され、既に多職種は認知症の早期の診断から治療・ケアにまで関わっています。また、宮城県内では認知症の当事者を中心に市民団体の活動（認知症のフォーラム・認知症カフェ等）が活発に行われています。認知症のチーム医療へ参画できるような人材育成が急務になっていますが、これには学術的な知識ばかりではなく、人として認知症当事者の背景や本人の思いに寄り添う（ピアサポート）視点に立ち、市民団体と連携を深め広く活動ができる人材が求められています。検査室から飛び出し新たな職域の発見ができるような企画と会員からの意見や要望に沿うような研修会をこれからも開催していきます。

以上